

体験談レポート

ユーザー： A.Oさん(30代・男性) 福島県
商品名： ニュウモラップジャケット
テスト日時： 2010年1月2~5日
アクティビティ： バックカントリースキー
(南日高 トヨニ岳~ピリカヌプリ)
テスト環境： 雪/晴れ(-1 ~ -9) 軽風~強風
当日のレイヤリング： (トップス): フラッドラッシュスキンメッシュ、ス
パイルフィル LW、ドラウトセンサージャケット、
ニュウモラップジャケット、他社アウター
(ボトムス): フラッドラッシュスキンメッシュ、ド
ラウトセンサー、ストームゴーシュアルパインパンツ



~ 防風性・透湿性を実感！薄手のレイヤリングで予想以上に快適に行動できた ~

1月2日

R236野塚トンネルの十勝側出口の駐車場に車を止めて準備をするが、真冬の北海道には標高が580mもあるのに、気温が-1と以外と暖かい。雪も降っており風も多少あるので、ニュウモラップジャケットの上にアウタージャケットを着用して出発した。

駐車場から出ると、スキーが沈み膝下のラッセル。年末からの降雪で、南日高にははかなり積もったようだ。一旦沢を下り、二股から沢を登り返してトヨニ岳南東尾根に取り付くのだが、沢に入ると風も無くなりラッセルで体が熱くなってきた。小汗はかくが、ニュウモラップジャケットの透湿性のおかげで蒸れはあまり感じなかった。ただし、余計な汗はかきたくないのでアウタージャケットの前面を開けて体温調節をする。小一時間程沢を歩くと風が出てきたので、アウタージャケットの前面は閉めた。

約1時間半でトヨニ岳南東尾根末端に到着し、ラッセルで尾根を登っていくと再び体が熱くなってきた。いつもならアウタージャケット

を脱ぐところだが、さほど内部に蒸れを感じなかったのでそのまま登り続ける。すぐに風が強くなってきたので、アウタージャケットを脱いででもすぐに着るはめになっていただろう。標高1,000mを越えてくると吹雪となり強風の中の登りとなる。しかし、ニュウモラップジャケットの防風性のおかげで内部の温められた空気が維持され、風による寒さをあまり感じることなく行動出来た。しかし、ザックを下ろして休憩したとき、風上側の衣類が風で押されて密着すると、内部の暖かい空気の層がつぶされ、肌にひんやりとした冷たさを感じるがあった。14時半にトヨニ岳南峰と東峰のコルに到着すると、風雪が強くなり視界も悪いため、コル北側の斜面を削りテントを張って泊まった。



1月3日

朝起きると、雪は止んで晴れていた。しかし、昨日と比べてかなり気温が低く寒い。昨日同様、ニュウモラップジャケットの上にアウタージャケットを着て6時過ぎに出発する。15分程の登りで主稜線上のトヨニ岳南峰に上がると、強い北西風が吹き荒れていた。すぐに手や顔が冷たくなるが、体の方は昨日と同じでアウタージャケットとニュウモラップジャケットによる二重の防風により、暖かい空気の層が奪われることなく風による体温低下はあまり感じられなかった。主稜線はやせ尾根でアップダウンも激しいため、シールを着けたまま慎重に移動する。約1時間でトヨニ岳北峰に到着すると、ここにテントやシュラフ等を残置し、時間制限を付けてピリカヌプリにアタックへ向かう。



トヨニ岳北峰から先は次第に風も弱くなっていき、日が差して風が止むこともあったが、天候が安定しないため衣類の着脱はせずにそのまま歩き続ける。ピリカヌプリに近づくにつれ次第に風が強くなり雪もちらつき始めた。11 時近くになってようやくピリカヌプリへの最後の登り入り、Co1、420m 付近でスキーからアイゼンに変えると、表面が硬いだけで膝上くらいまで沈む。少し登ってみてもラッセルのままで、残りの標高差がまだ 200m 近くある事を考えると、時間内の 12 時までには山頂に立つことは無理と判断して、トヨニ岳北峰に戻り山頂でテントを張って泊まった。



1月4日

今山行一番の晴れ。入山3日目にしてようやく滑りを楽しむ時が来た。風は弱くなったが気温が低いので、晴れているがニューモラップジャケットの上にアウトージャケットを着て出発する。シールを着けたままトヨニ岳南峰北側の小ピークまで移動し、カール上部斜面で確認すると、危なそうな弱層はなかったのでここを滑ることにする。荷物を置いてカール底部まで標高差約 150m を一気に滑る。雪質は上々のパウダーで、十勝平野と太平洋を望みながら真っ白な斜面にシュプールを刻む滑りは最高に気持ち良かった。久しぶりに太陽が照り付ける中、もう一回滑ろうと息を切らせながらハイペースで登るが、ニューモラップジャケットの透湿性のおかげで、アウトージャケットを着たままでもあまり蒸れを感じないで登れた。カールを2回滑って楽しんだ後は、登ってきた南東尾根を下る。しかし、上部は灌木が出ているので Co1、190m 付近までシールは外さずにツボ足を交えて下りる。南東尾根は、登ってくる時に狭くて滑るのは難しいかと思っていたが、滑ってみると予想外に快適に滑れた。1時間程で尾根を滑り南東尾根末端の二股に到着。時間がまだ早いので、空身で 200m 程登り返してもう一本滑りを楽しみ二股にテントを張って泊まった。



1月5日

天気は曇りで早くも下り坂。来る時のトレースをたどりながら沢を歩き、小一時間で駐車場に到着した。

今回のレイヤリングは、アウトージャケットの中にニューモラップジャケットを含めて 4 枚着ていたが、全て薄いため北海道の冬の寒さに耐えられるかどうか、正直不安があった。最悪インナーダウンを着ての行動も考えていたが、結果として温々とした暖かさまでには至らないが、行動するには十分な暖かさを確保できていたので問題なく行動出来た。また、すべて薄い衣類のレイヤリングのため、きぶくれせず動きやすく発汗も抑えられるため、予想以上に快適に行動することが出来たのは良かった。

私は「暑い」より「寒い」を取る方で、寒さには強い方だと思っています。よって今回の使用環境では、個人的には寒くもなく暑くもなく丁度よかったのですが、人によっては寒いと感じる人がいるかもしれません。

